

臨床入門Ⅰ

[講義] 第2学年 後期 必修 1単位

《担当者名》○飯泉智子 i-zumi@hoku-iryo-u.ac.jp
葛西聡子、小林健史、鈴木瑞恵、辻村 礼央奈、永見慎輔、前田秀彦、柳田早織、若松千裕

【概 要】

言語聴覚士の臨床に関する総合的な導入としての講義を行う。保健・医療・福祉・教育の専門家としての倫理および言語聴覚士としての社会的役割を理解した上で、臨床業務に必要な基本的態度、安全管理、診療記録の実際等について学ぶ。それとともに、言語聴覚士として生涯にわたって知識・技術の更新に努める自己調整学習能力を習得する。

【学修目標】

- 1. 保健・医療・福祉・教育の専門家としての倫理について、その重要性を説明できる。
- 2. 言語聴覚士が果たすべき社会的役割と多職種連携の意義を説明できる。
- 3. 言語聴覚臨床業務に相応しい基本的態度を列挙し、実践できる。
- 4. 臨床における安全管理の基本を説明できる。
- 5. 診療記録の役割と個人情報保護の重要性を説明できる。
- 6. 言語聴覚士養成教育における臨床実習の目的と意義を説明できる。
- 7. 生涯学習の基礎となる自己調整学習の方法を概説し、実践できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	言語聴覚士としての倫理	飯泉智子
2 (8	自己調整学習力 医療接遇と専門的コミュニケーション 臨床記録 安全管理	臨床実習カリキュラムにおける自己調整学習の展開 言語聴覚士に求められる医療接遇 実践的コミュニケーション技法の展開 臨床記録の役割と記録の実際と個人情報保護 感染防止・安全管理 基本的臨床技能の到達度の確認（OSCE）	飯泉智子 葛西聡子 小林健史 鈴木瑞恵 辻村 礼央奈 永見慎輔 前田秀彦 柳田早織 若松千裕

【授業実施形態】

面接授業
※授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

客観的臨床能力試験OSCE 30%
ワークシート・ポートフォリオ 50%
期末レポート 20%

【教科書】

「実習の手引き」・北海道医療大学言語聴覚療法学科 編

【学修の準備】

配布資料の該当箇所を事前に読み、用語を整理しておく（80分）
授業後のOSCE課題に向けた自主練習を行う（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP3. リハビリテーションの概念を深く理解し、保健・医療・福祉をはじめ多様な分野の専門職種と連携・協働し、対象者中心のチームアプローチを実践する能力を身につけている。

【実務経験】

鈴木瑞恵、永見慎輔、飯泉智子、葛西聡子、小林健史、前田秀彦、柳田早織、若松千裕、辻村 礼央奈（すべて言語聴覚士）

(2026年度・リハビリテーション科学部)

【実務経験を活かした教育内容】

医療・保健・福祉の臨床現場での経験を活かし、言語聴覚士としての実践力の養成を目指す教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している